

輸出向け有機茶製造工場が稼働

産業振興への思い熱く

藤枝市・葉っパイ向島園

【静岡支局】藤枝市瀬戸ノ谷にある葉っパイ向島園では、約35年前から茶の有機栽培を行っている。

向島園では、「一本仕立て」という栽培方法を行っている。挿し木は極限の小ささの一節一葉を使い、育苗せずに直接圃場に植え込むというもの。また、茶の木のストレス軽減を目的に株間を広く取っている。こうすることで根張りが良くなり、幹は一般的な栽培方法のものより10倍以上太くなるという。

園主の向島和詞さん(31)は、「育ったお茶の木に触れると強い生命力を感じることが出来る。お茶も生きこころ」と話す。

「お茶と持続的に共存共栄していきたい」という思いを持って茶栽培に取り組む向島園。茶と向き合った結果、本来の生命力を導き出し、茶の木に合わせた生産方法がいいのではという考えから農薬・

化学肥料不使用で栽培を続けてきたという。安全・安心を裏証するため、2000年には有機JASの認証を取得し

「お茶を飲んだ人が葉っパイになってほしい」と向島さん(中央)と向島園のスタッフ



た。

今年3月、向島園は瀬戸ノ谷の山あいに煎茶と抹茶原料のてん茶を製造する工場を建設。茶価低迷で経営が厳しくなっている地域の生産者から生葉を集め、高付加価値の輸出向け有機煎茶と有機てん茶を製造している。

向島さんは当初、輸出に関心がなかったが、「有機栽培が広まり、静岡のお茶作りが盛んになるのであれば、作り手と買手の両者をつなぐ役割をすることは、地域貢献になる」と考え、地域おこしを買って出た。

「自分のお茶を飲んだ人が葉っパイ(ハッピー)になってほしい」と話してくれた。

(鈴木康)